め

木 龍 成

新 初 夢 年 田 明 に おけ 迎 目ま う元 HIL 度て うご 日 0 ざ 天 45 木 ま 村 す 岳

風

した 12

は まこくが正 たの 新中課昨心 たに題年気 なあ山来一 一っ積の転 歩ての世の を、年情新 踏私明はし みたけまい 出ちとこ年 すのなとを と吟りに迎 き詠ま慌え を活したま 迎動ただし

成 ニナ 五 年 岳 精 流 指 標

平

岳精流日本吟院

月

教増 活す極吟年会十一出舞五 っおにい重義度にで平こま「鋭十 てりあも来深の巨あ成ろし合が一 や、つの、い技っり十でた吟一日 や誠てで次こ術て、八し。コ第に °コ第に すなとの `そ年た結ン四は 差に °るで研吟ののが果ク十 ` が心会 チあ鑽詠方前 `は | 四千 あ強の りい吟 ャっをの々回五入ル回代 ま限友 ンた積基を出十賞に全田 スとん礎中場五ま三国男 すりは に思だか心後名で回吟子 がで確 是い事らにの中あ目剣五 `す実 °12 非まは合一入三との詩十 Z

しげ友平過すにな期し会が出B なはえ 場加こか。めの間の四歩場道名十まるの素ご。充企待プを、来グ年か忙ま にしのし捲て最近方名のを大の一しこ吟 `し参実画ど別"新れルのっしし よて間た土意高く々がとし会精月たと詠交た加しがおととしば「後たいた °はを流ののた実りなのい会プ半か中 意聞ので皆内現そり顧会統に `とに振 義い機はさ容しれまい員一別恒思もり 深た会なんの `ぞしかをでれ例い大返 いりがかも会両れたら中実てのま変っ こ `少っ満でグの 。 `心施実―す充て 、心施実」す充て °実み と語なたちあルグ結昨にし施温 だらいで足っ | ル果年 "たい習 しま たす とい他しりたプーはの全いた会 確の教ょたととプ、会員催し 年 信輪場う一思もの当は独しまを いをのか日い非斬初グ吟でしA で昨 た広吟°をま常新のル機すた・ は年

強いがる "か々て一読新 またかもる料 °け地成講昨めう一大親ら逞進千 `し右め四 `名 `がそ実よけるっさづぞ 一新す °今で域果習年ら身層き教決しん代ごい記るブ千以大決のにりて平ててつれ 年し 年 `のを会かれ近進く場めいで田理規の にい も新 "実」らるなめて"らもき」解約こ し年 `しコ現も本こ組ら活とれのたのいのと よを う益 こいミし二格と織れ気分たと私名た中に れ吟セま教的をを `の室もしたのだにつ で々 ら友ンし場に願通まあののてちもき記い はフ ののフたがスっじたる強でいのとた載て あレ 取入ェ 。取タてて「研固すきこおいさの組会ス鎌組」いのブ修な 。たの互とれ細 りッ °たの互とれ細 まシ い組い思まか サユ みがタケみトま相口の絆 を実"谷、しす互ッ場が と織がいすな んな °協クづ形 のを協まの内 継りが教実た か希 願、力すで容 力一く成 。望 続まき場の一 がとりす い益しが一は 高 ししっであ無

強を二〇一み 歩れ 充を向たと ロ代上型また取は "成新 、前の ッ田〜教りめ組 っ三廿し迎進教 クのを場まにみき十八いえし場 に現一へし `たり周年幕たてが 別廿支分た次いと年の開平い研 °のと掲、一け成る修 け六部室 よ思げ三創で甘この て拠教を 一点場含 ういて○立す五と中 なま `〇三 °年は味 層へしん の教とで 新す教名十今は確と 結場呼会 °場" 周年千か併 `称員 11 `の年は代でせ 集 会目 一 、田すて 仕 力分す数 組 の標に来に を室る五



R H

~A容増と本に一開してに三 とて:東グ三二優栄十 : 女丸グを功、はつ月催て来伴大 、新陽ル位位勝誉三無構子のル詰労演全いにしいたい行 、内しめ者奏員で準たずがこ事 も今数一 杉年年つ 並は 公A3習 会。グ会 堂Bルは を21 会グプ会 場ルで員 と1実の り会るも内 しプ施増

○今がのと

まさ開。ク

すれ催そト

てとし大

手が者吟清第プて表 、が検備 に出独「水一 本彰剣登討委 さ場吟盛 、十番で詩壇を員 たに詩ま、、月犬坂藤れしコ唐新丸月を一舞し重会心も文と分ハ十飼下谷た、ンの宿の廿迎致をてねが °次ク詩 内五えし入一た発 の | 人新第日た `れ吟が足 。構るを 方ルた宿二へ ち第 想こ披ど時 二丸 をと露ち期 練 すらや 内

〇内員ご基容

K 为家 賞

を名伝成

りか全たにマ日嘉光初 がるて内ス 、 一子夫男 好よ冊容ポ鎌火 評う子とッケン 鎌新鎌 倉宿倉 っロしたを

> 無 十十東後干第し岳 料 月月陽に代三て精 廿廿町繋田の取流 七日教がで取上で 日へ場るも組げ一 △土神と `みて吟 楽期次一き友 坂待の無たの 第第分が二科会輪 二一室膨散講員一 抱 ら場習増プ 可可 開開 んで会加ロ で開一活ジ 催催 い催の動エ

神習 楽会 坂に 分望 室み 長を 勝い 村て

ははのけ材りしな健声 祈たよにまか出のでる ま参磯綿たをま温る康でキる。う申ちらし要は会岳 し加田密り受しか発維沢ヤ思三にしと実呼請 た者先な、けたな見持山ッい万言込び施びがま増会 の生打また。対やにのチで部わみフさ掛あず強本 不申に合ずり甲応古一酸フし作れ、エれけり神の部 安しおせま、斐にき 人素レた成、ちスるに、楽為始 °す編らタN応結坂のめ の込顔をずハあ心歴詩をし 内みい繰のザっが史吟取ズ る集し二Pじ果で無 にをしり出マてけををりと 冊にを○○まは取料各 も待 `返発教か `知通込し 子間急一主しと組講地 ににい二催たもん習で期合で一の。かで会取 `つ準し `場 `準るしんて 当ば備、耳のテ備〉様で人 待わ作イー十く欲、組 日か万第塚応レにを々心詩 まり端一先援ビ取打なと吟 をせ成べ神月勇し千ん でと `回生をのりち新体の 込ますン楽後気い代で にた後目と受取掛出たの発 めしるト坂半をと田い

> 動場希二 キしとし始中場当十 指に詩とのりく者 導役吟思試まもも

りいて。強各人、 たる学 運教会十

と間たまにで望名第をたをくまで満日八 考達こた取も者集二差 。願満り講員は名 `り`をま回しそい足`師の分の て手が神組こ得りは上しつす上の和室受 いを社楽まれるま新げてつる達先やメ講 ま組会坂れか結したま参、内の生かン申 すみに分るら果たなし加再容礼方なバし 育立室こ同と。受た者会で儀の打1込成派はと様な早講。全を、作っちにみ 員約入法詩解もを に東会に吟け来頂 に立をいみし八加 おしし至とたてき 頑っ通までた名わ 礼終てるは雰頂ま 張てしす増。のり の了頂ま「囲きし ハしくでか気 ` ガまこ楽らの会

ま講らをた参たるは利のっ定も ず習第利。者す。利便確たさ杉岳 手会二用何の所ど用性保。れ並精 掛を・さと入はの日やで何 `地流 け立四せかる既公時防あよ八域の た上のて抽余得共の音っり月に方 のげ土頂選地権施調設たも初お針 はる曜くでは者設整備 急めいに パ形日こ一極がもなの駅務かて基 ンが午とゆめ押こどあかでら本づ フ整前にうてされ間るらあそ講き のつ中なゆ限えら題施のつの習 、りう定てのは設アた取会新 。全、荻さお条山、クの組開宿 五十窪れり件積さセはが催教回月東て、をでらス場始が場 -あ のか館い新満あにの所ま決で

2

0

荻新 窪宿

無教

講

新習

宿会

第そ

二の

濱と

口さ

題

泉

あ

き

料場

ム新と、新陽ル にし、分し町1 添い出室い 付会吟每拠神 し員のに点田十 配分をめ室ザ六 だプにしト谷

たグてこ当色(B

無后 催卜

料精 講流 習課 会題 を別干プ 代口 田ジ 岩工 開ク

い仲ん

まが廿Ⅰ 仝仝仝や奥仝会皆し実一ク文 伝た力名か化 伝 を `なの お十師が日 目分範わ 出に三で恒 山二渡小野荻窪田と発名実例 山二渡小野荻窪田ラ海 施の 手宮邊林沢 田中ごし準さ昇 ざて師れ伝 遙祥華明柳龍龍龍 い見範 風風風風風風裕溪薫 ま事三奥査 丸ハ清熊丸鎌丸丸た格の以サ し合名伝が ザ ケ さ方上ン 女マ水谷二谷二

ら々盤出く進のに て体いに新れににす自めも基講申間をた。の内O も験たは会た取はよららとづ習しの持。ま前在O も験たは会た取はよららとづ習しの持 °ま前在〇らしだ `員 °り緊う楽れ `きは込協っ当たで住枚 えてきそ獲 る、、の得 こ吟そ後の とをの教妙 もよ熱室案 必り気見と 要身と学て か近高へな とな揚とい 思もぶ足が わのりを れとを運受 る感直ん講

奥

ten comme

ĤП

節

杳

れ々にワ

払張度した穏、、み力て初地はのほ わも々む。や酒教をももは域多友ど れほ励たそか井場頂あら一のく人刷 てぐまめので・でいっえ般掲の知り いれさに際寛橋特たてるの示利己上 っ `れは `い本別 `か方板用へげ た吟て、聴た面に 十不々に者の よへい臆く雰先作 三安にもに配教 うのたせだ囲生成 名だ詩貼直布場 に垣。ずけ気のし のつ吟付接をの 見根講大でのごた 受たへし手頼仲 受も習声は中指教 講がのて渡み間 け徐終をなで導本 者、関同し

の仲心った館区二

精今感残う もたがでをビでと私をけにしう後歳しに出勧 進後し念よ今車°ら外歩り歩勇をもななた衝、でかし身め什 い更反にう回椅千時出けをけ気励てけっが撃平復して地ら八 たに省思にの子代々はる続るをましれた `的成会仕お熊れ年 し研しつ吟皆で田教無よけと与す山ばあ回事廿し事り本、前 ま鑽ててじ伝参の場理うお信え様本しる復態年現が、で幼 すをおおら審加廿にでに陰じてな有武日にと病在忙即はい飯 °重りりれ査さ五行すなさてく詩三者教伴なでにし入盛頃田 ねまままでせ周けがりま、れにを小本いり左至く会んか精 すすせはて年る家まで入ま感何路を吟希足っ休しでら鷹 °ん緊頂大よ族し杖院し動回実開を望大て会まし歌前 にこ勉で張い会うのたをやたしも篤き口を腿い °したが会響れ強しして、に協 °つ通 °生吟¬¬ず失部ま定たの好長 くを不たたお温な力まい院必きじ心歩さっ切す年 吟契足 °のり習りをだてでずるまにいむて断 °の よで詩 詠機を大かま会ま得一室リ義希し太てよいとそ六 く特吟 をに痛変思すにしな人内ハ足望た陽ゆうまいの○ 耳にを

仝仝準仝奥皆 伝伝 師 節 師師 範範

1

に

太

丸陽

のを

内も

第て

 \mathbb{H}

龍

董

奈吉犬小片村 良田飼林山上 崹 應喨堯明寿龍 山山山風風道 称新新鎌熊東清 陽 宿宿倉谷町水

な代ご年なためっらののに入 て場団祭 返改吟と評し不っまな 四長体の十がも厚を社会とてれお磯及会平しめ詠 `でた安たしが文 十ととコーら残誼過会社し頂た陰田んし成自て以姿 `がともたわ化 分計しミ月吟りをごを生てい事が教で、五ら「前勢詩、緊の °のの間画て・十に僅賜す知活、たをあ場ご入年に初のを文予張の窪皆日 悔 `初セー動かるこりと数耳感っ長指社 `言心基正を感の `田伝 い全参ン日しなこと、は々塚謝て並導以定い忘本し十どな体。審 の員加・にみ日とが楽全の・しこびと来年聞るこく分おか調田査年 なでして鎌た々を出しく吟細てそにご今直かるそのにりで不中で振 い準まエケいを顧来く違友井お今 `支日後せべ最二理の」良両宗り 出備しス谷と懸いまもっののり日岩援ににまか重点解箇飲の姉家の 来とたタ市心命 `し有たお両ま `崎を至東しら要の `所酒せののサ で練。発恒しに成た意幅陰先すこ・頂る陽たずで指熟でいた審ン 、習植表例て、長。義広で輩。の林い迄町。」あ摘知ミをか陣査ワ `習植表例て、長。義広で輩。の林い迄町 想を村部のい楽へ更ない長を又時両た半教 をるをする吟極ををし `じ度承受ク 定重副門文ましのな十新かは `が先当世場 繰事頂る 以ね教に化すみ糊る九たっじ誘迎生時紀に りとき事講まのわけか

上支会 げえ長身 まと、障 么 審 す励教者 。ま場に 査 鎌の し長な ケ受 のはっ 谷審 おじた 教と 陰め今 と `も 場そ 長の 心諸続 背 か先け 荻景 ら生ら 威、れ 謝吟る 龍 裕 申友の しのは

指もるたがま場ま熊日後っ陽の た儘り記思に を私導ひとし、だしす谷、押た町詩思がなと試いあこ 噛ものと嬉ま大一、。市十し時教吟い、らて験でたの み家賜えしすき年岳そに一を、場に起恥ずもの臨り度 縮元物にい。な八精のは名受熊に魅こず俳慌後み、の めのと東悲私会か流春文のけ谷人せせか句で、まそ奥 、一深陽鳴自場月こと連会、分会らばしはて奥しの伝 今今く町を身でしこ秋と員忘室しれ川いどし村た重受 日が感教上こ朗かにの吟でれをま即口限うま先。さ審 一人謝場げれ々たあ大剣開得作し入力りにい生午にと 日生しのてでとっり会詩設ぬるた門ルでかまの前身いをだて諸いは絶てをに舞い昨べ。しチす吟し実ののう 大一お先ま先句おPは連た年く準、ヤ°じた技奥引一 ら。審伝きつ 切とり生すををりR全盟し三教師そし にいま方。越坡まし員がま月場範ので れ絶査師締の しうすのこさ露せまであし十かに後宗 ま句が範ま節 言。ごれれいんす。出りた一らな東家 しはあ筆る目

重く達 び名定り後上 ね来成教合達のまのの るるを場い成見し地好 風 決こ全拡まへ学た域結 意と員充しの者 。密果 0 でをで計た道が更着と 熊雅 °があに活反 過念喜画 谷号 ごじびが 漸り十動応 分を く、六へに 室拝 しな合一 てがえ気 開念日の全 長受 け願の意員 いらるに L ま `日前 たの教欲が 小て す日が進 と市場が歓 °々一し 全内に盛喜 努日、 員会入りし で員会上 力もそ

を早の

伝 審 杳 排 清戦 水し 7 渡

風

林

明

厙

がり出歌とあ完しめが本頭絶納とは「るりこえ私つの挟」に、、っ了ての欠番の句め欠提風のとへなはけ十 代まノ残俳おたし独最落と中二たく示一でしやか受、一 わっしる句よ。た吟終すなへ題の事さへあてらっ審コ月 りてト吟がそ私のをおるる叩とははれのるいでたの1三 にいにば数五ので聴浚恐とき俳直無て挑 °るあの緊ト日 こるはかえ百修あいいれ人込句近かい戦泉のりで張がは °五りら首得るてはを間んののったでかで、あ感必 短電十でれの手。頂村感のだ三一たのあら感日ると要早 冊車首あ 、漢帳思き上じ弱つ首かがでる山性本 共な朝 をのほるそ詩をえ、先てさもを月、、。そがの今にほか 見中ど°れ、めば修輩いがり完間本練早し研四夏身どら ななの私ぞ近く長正へた出で膚で格習期てぎ季の震で北 がど詩のれ体っいを特。ても無あ的時に今すは熱いあ風らで吟ダに詩て道入にそ、、きっに間課回まき暑をっが `文短イ想 `み程れおの一いまた習に題はさっは禁た吹 「庫冊アい和るでて願た部ざで °いこ吟 れちどじ °き

願がとに家ま雅谷心 いこ思吟のす号分を 致れい友廿 °を室忘 しかまと四そ頂をれ まらす楽年のい大ず すも °しのたたき 。諸まい指め年く吟 先だ教標に月し友 生ま場一もにてと 方だを清 `対い楽 官未作新健すくし し熟りの康る事く くな精気に報が吟 ご私進一留恩一じ 指達しを意と風あ 導でたもし思しい

てをの錬一期の

し古風を、

おすいと宗いの熊初

喜十予が今

す甚友今い重許と千の中 °なに日るね証す日剣で 吟 °吟を一の豪吟 厚る教ま 0 楽 く感えで 道与と稽宮詠 にえ言古本し お謝を多 磨らっを武て 礼の受く きれて鍛蔵い 申念けの をたいとはる しをて先 か暁るし五の 上棒き生 けに。、輪で げげた まる。諸 たは幸萬書あ すもこ先 い、い日水る °のの輩 と更にのの 念にし稽巻江 で機そ 願稽て古で戸 あ会し

りにて

ま深吟

松し 戸み 分 室 祥 風

教員かいてに 吟 りよ吟を ととの とれそ、論共きもと場はなも十もこ友ごでくの訪平いをれ不語に脳楽にとな分千二通の達指こ続手ね成 う好を如に寿のしか自か室回年い間に導のい解て十 だむ知楽『命血みく負なををに、、感頂度たき け者っ之知も流だ吟しか開越な家我謝い奥もを飯年 でにて者之伸が。はて増いえる元孫すた伝の受田二 はは居一者び増入楽いえてた。、子る多をだけ会月、及ると、るし間しるなか。教宗、次く許とて長、 °ボはい。いら又場家川第のさ思か、初 そばとい不 ケ楽、 れないう如 のし又 をいう言好 防い吟 楽 °だ葉之 続年場ザ 度なにチ導ル しそけが者 止と友 はに長マ のるさゃをチ 諸 に感と むれであ 濃。さし頂ヤ 力なか教 先 なじ会 者をはる好 なる。ら場 輩 るたう に好、°之 い会や通いし

し課 れ数の た題温で年体孫 學習奧 、調の 岩の会伝お不出 崎練の審陰良産 先習練査様にの 生は習をでよ手 、あに受こる伝 山ま時けの入い 口り間る十院 教出を事一と姑 場来取が月吟の 長なら出三を介 他いれ来日離護 諸状、ま四れ 先態奥し年る自 生で伝た遅事分

さ二本開子

頂総れ年大催チ昨

き本ま振震の1年

じら、

桑昨

部しり災全ムの 同かたにで国が創

'十中合出立

一止吟場廿

月とコを五

切まの山 接せし しだだと にた人あ歴しらて奥たいしい十 でいう一 し先々り史てれ 、伝 て牛にま的いま改師 無中秋月 事、の三 行や伝すなこすめ範 き諸えが面う。てと 試先イ目 た先て `白かそ吟い 験生べは い輩行そさとしとうと方きれ等:ての大 東受 をのン本 受熱ト業 陽け け心とで こ触き III T れれな るなかあ H か合区 こごさる と指な手 III らい切 が導っ丁

出をて芸

来い慌展

またた示

思とたら いのいを吟 まーと一の す期思人楽 吟をり °ーいでし と考に 会まもさ どえ直 もす多は 。〈沢 うさ面

合第 吟四 コ十 ン四 クロ 1全 ル玉 に吟 男剣 子詩 チ舞 一道 ム大 出会

Œ

L

11

節

丸調

のな

内理

第解

二し

野え

沢る

風

伝

十なン決周 **彭**.年 をに 一りクめ年 度続 日ましてを (しルい記 るき 日た大た念 が会武し 賈場 に、は道て、 島の 場 開今東館 作承 で認 催年日で男 難がたがさく初四発 `め名声朝 °発ほ ご大惜揮ど観ての練七 ざ切しで緊客の吟習時 いなくき張席経友の ま経もたすも験の後靖

し験入のる遠で方、国

たを賞でこくし々武神

さははとにたと道社

せ出なな見が登館大

て来いくえ、壇の鳥

たせと練し場ま舞に

だん思習たがし台集

きでいのの大たへ合 、しま成で変 °五し

しま成で変

有たし果、広

いまか

`ま会し大居

十て

らでら歳くが し及 もあなになり吟むば 精るいなる、を方な °がっ °吟楽がい しっった小力し程し た生残。生がむ度理 い涯躯いも向こが解 °吟天つ徒上と高よ 『楽所迄にすがいり 吟吟許健馬れ吟と愛 楽の 康齢ば力解好 萬覚不でを `の釈 歳悟楽居重又向出愛 □で復れね吟上来好 こ如る八がにるよ れ何か十楽つ か一判一しな

伝

師

範

を

寿

風

重伝 ばと母教 る吟た力 たにあねえ新と指音え詩資譜 が吟事教 りたらし改摘のて吟格を雅現暦にえ がいれいめさ切頂はで理号在十厚て ととる方てれ替き母は解は伴数く頂 う思様々感 、えな音なし吟っ年感き ごいににじやをがのい `曆てと謝 ざま気 `まは大ら芸か流でいはしそ いす持岳しり事、術と統なる言てれ ち精たまに審と思のくのえおな を流 。だ研査諸い節 `か」りり 新の 努究の先ま調い否風まに 力し折生しをかか一す仕 た吟 して「にた伝に疑を な下俳厳 。え正問頂 にを な下俳厳 げ 努大 けさ句し らしでく 力切 れいのく れいし実

白神山地の大ブナ 星野久風(清水)

がちの練をれ圧る い整3の社 り発名新月挑 応独な千習逸ま倒い企て列F激境寒、声を会か戦 千援占み代でしし的光画力し席励内気十 `越員らと 代いしに田身残たな「構一てへをにで回口え増再決 田たま `のに念 °迫斯成杯登腰受集身にの `加開ま のだし上財付で成力界番吟壇をけ合が及形岩をしり 吟いた位産けし績と挙組じ `落て `引びと崎反ま 三とたた発人げ「て城着武発締まい、映し中 チし基が表数て来席戸け道声ましう耳した断 達宗 して礎大でにのしへ稲た館練るた合塚て 有家 ム必力舞は十吟方戻風がへ習朝 °吟両初出て 難は っ氏間。。七 の先出場い はずは台惜分詠 うじ 今残 `のし堪と行たのも広応時 基生場メた ごめ °先無い援、 年りこ経く能剣く 本の者ン練 ざ幹 か指がバ習 導く館の靖 もまれ験もさ詩末 い部 ら導三しを 女すかと入せ舞 に出内宗国 まの 続番の家神 入も十も二 °ら`賞らは明 し皆

をに

第 川 -几 П 武 神道 楽館 坂合 吟 江に 崎参 加 亮し 一て

今年 0 干支は癸巳です

よ

n

を楽 L 36 水 Ш 手

4

風

元う求興のしでで所彼じは一くお対わまか憂燥一はな平 °の老あ論心衰はぎデえるまえ年 余いり老構弱一をィず終すて程 。お過 生をま後え `老求ン `末 を楽すのが孤いめグ如を りぎ 見しが備大独とるを何控 ま 出む一え切感闘こ迎にえ す今 し一老はと等うとえし 事日 たこい常助の一切たて不 にお `陰 いととに言不とでら後安 先様 とに闘心し安かあ良顧と

気こめじごてお、、のて我とべりすれす、いの方感ん均 指以り現楽伊おが同きまる、°心な念 をが老古導来ま世し達り身時こす備身世のきを迫でか命 い出い今を、すにま男まなにと。え体間安工禁りあ永を た来て東賜吟。到ず、すり一で勿ののでらンじ来りら五 だては西り楽幸るし政 、十いもて宗 `なの て老ら名今六に私復も お後で詩日年もど如一 りののに夫 `吟も何残 まさ楽心婦諸友のせ躯 すさしの共先の共んは °やみ安々生仲感一天 かをら吟 `間をとの な味ぎ楽先入呼詠許

"わをに輩りんんす 念私う置てに言りいの焦

でら代れの事の がでに刻 当どきを・ 時酉龍は 未辛しとを 拙当 しれのて他で戸日殷使活に十て六の表金そ刻は、鼠中申壬た、開ま文た ょ 、活き色 、籍本代わ用あ二て十えわ・し及鳥巳 、国酉癸と陰くず る う果用た々冠簿でのれさて支用種ねす水てび、は丑で戌のあをと かた面。な婚には人始れ一はいの一弟一先方戌蛇は十亥十り表 しで、行葬視、々めて今、て組・をにず角は、牛二の種まわ干にな何 てや尤事祭ら正がたき年年いみ乙合記十の犬午、宮十、すす支な序か 。弟にる文書 、れ倉用かたはとる合丑わし干名、は寅の二支 後崩近日新る院いは。日くどれ年取築の文で、で年に 。わしせ、をと亥馬は各種に干しは干) せきて陽五すは、虎々がははと陽支をて `の名を行る猪未、にあ子甲〉をに記と うて `り`が書いしはだ生 年とと表へ ない比な転最のたかい一年 °は卯獣り丑乙を表つしの ・うしわ木 っる較ど居古大由とつとや そ羊はをま寅丙つわいま依 の `兎あす卯丁けすてす頼 月し`す・ 。判頃い方 て面的種方の宝 °辰戊て兄辞 、う位 • 一甲兄火 各申 `て いも若々位例年 5 などよ・ 日:子`• 巳己名〈書 々は辰 く感い使 こと以 を猿は子 午庚とえ等 いこう時 になへ陰土 のじ世わその降

今 年 0 運 勢 副は 会強 長盛 運 原

皆明 様け ゛ま 素し 晴て らお し目 い出 年をおご 迎ざ えい のま 雏 中す。

今

回

Ŧ

支の癸巳(みずのとみ)

K

支

0 考

ザ

7

宮

沢

風

感当くそ陰間1吟 てせ移いわ明 習来の にる日一謝になれ様をのじ四現んりまれ治年 励こか度で良りだで楽練ら年在で遠して生齢 みと、はすかまけ、し習れ前はしいた入命を °会の重 °っしは剣みをなに鎌たの たを再落 たた続詩にしく甲ヶがで会し定ね い楽びち とがけ舞教たな状谷、あ社、年る とし吟込 思剣てを場りり腺に何まが最少のい詩い習に、まガ通とり合初しも 思みがみ いに出ま ま舞まっ通仲しンっか積併は前早 、来し ま すをすてっ間たのて仕極し東にい す今るた °習 °いてとが手い事的て陽荻も °は様が 金っ吟まいふコ術まとでか町教の 剣に 子てはしまれンをす両はらに場で 詩なま 先い出たす合ダし °立あ新行長す 舞るた 。うクて、 さり宿っにね 生て来の の日何 に本なでお時タ せまにて誘 錬が時

せて構せ気うキ通に自暦 本んおえず力にズし進分を私じ + 年?りで一、無ががめの見はま 過体理付甘ば力る昭す 鎌五 も す平ぎ力なくい良量と和 。和たは行、としと大十 ヶ年 宜 谷の L 夢なる減動そ計 `経変六 副新 < は一は退はの算ま験強年 教年 お 場を 多年及の控よ違ずを盛生 願 すでばーえうい謙生運ま 長迎 11 ぎあざ途てなや虚かとれ 申 え てりるで、事、なしあで 太て L F 書たがすまに信心 `りす H きい如 °たな頼構諸ま げ きとし背近ら関え事し今 ま 緑 れ願一伸年ぬ係 `順た年 す。 Ш まっのび、よに見調。

友 K 感 謝 で す

女 Z 志な 茂っ 分て 11 Louise harmone tanana

拙を十

00

無稿

精一

なの

の依

で頼

。以文受四

・ら縁あ頂吟履部のた

もあとい会修にを

導吟るお会す次一をれは沸おに別えた会りにりまに 官の人伝っ。の私出ばまい関戚表た。そまた、1人 えまな、 の杯出ばまい聞戚寿た 干あす出だてき激栄事会たする感た会 支り事来こ来しし大に長事。う慨。さ ままがまれまま `会感はは岳とに初せ です大せかしし九で謝じ私精新耽めて 頑が事んらたて十家のめに流たるて頂 張 `だ °で 。 `八元気諸とのなとのき つ少と腹す私感歳の持先っ素気言干 てし思式。に無のきち生て晴持う支早 いずい呼でと量女りで方宝らち今をや

う乗すで健てな会と杯又にいなとえ年

方れ。を詩とり。大康のり員しで吟な詩り違る目神

のか実精吟思越課きで吟勇のたす友り吟つう事に田

ごらり一にいえ題なな生気吟態。にまにっ自に入教

指もあ杯出まては声け活がを度特会し出あ分なり場

殖 HH は JU 0 清〇 水を 超 山え 口ま 勝た

官の人伝っ

し向生えて

くとこしい

おのれたな

顧たもいい

いめ吟と方

致諸の努々

し先お力に

ま生陰致私

`でしの

先す。ま気

す

tomas tomas

なか、よ月

り時まっ十生 一がさて八ま

を過る父日れ

越ぎ」は、は

え、一今真尾

ま杜と次珠張

し南命大湾の

たの名戦攻国

。一しに撃

渦人ま勝の昭

日生しつ十和

一七たよ日十

ち十。う後八

よ古いにで年

だ来つ一し十

四稀し勝た

し中のい しか のし誰のしい明一だいち で、も一た。日度頑。やさたで昭わ入くら一明 す吟い軒いま香で張定んて °はな家°たにいら年ち 今皆いで小 `住いな退ゃ抱 年との晴川一んかい職ん負 も一を耕の年でらとでこと マ緒幸雨流を飛京いもはい イにい読れ幾鳥都け年坊う ペ吟にのるつ人・な金主こ 1ず放暮苔かの奈いは頭と スる歌らむの想良私翌にで での高しし温いにで年はす 吟が吟をた泉を住す、似が じい。し雑で感み。ま合

たいした木暮じた夢だわ赤

いもかい林らたいはまない

生て挑の

が事でル

健つ何たを曲入機清前をけ号 11 吟て年多過は会に水かごまへ を交吟くご四し、建ら容しの 楽流がのし〇、平設故赦た恒 し頂出先て〇以成で事下が例 んい来生い曲来十の来さ でてる方まを十四会歴い生年 いいかにす越年年社に くる判感 °えがに人興 つ方り謝今、過〇生味 も々まのま毎ぎBがが りとせ毎で回ま会終あ でこん日ご楽しのわり すれがで指した詩っま

°か、す導く

何進提歲

2 0 丸ま のほ 内か 女環 子曆

こつま吸もっに性っ一、物しに迄迎八

倉 明 discount of the last

辞子れ会おみ九け めさ、は願る五ま ずん同二いと三し にが級〇し洟年て 頑お生〇また生お 張らに五すれま目 。小れ出 ろれ磯年 僧のと うま田 で已う とし常丸 す年ご 励た任女 ま。顧の し二間黒 本諸い 年先ま あ人の一 いで奥点 も輩す ま途様と 宜方

にすバーイやに歩にアずす持読すい るモす旅手リ水

たしョンた躍一メの得息とにらの読は ま `ンモいす緒リです継い表詩アを教 た指シアもるにカするぎっ現のクよ場 ま導ョはの大 `に °こやて出背セくで 私を「市でリダ居もと正も来景ンしご の受へ主す」ルるう等し繰るやトて指 誕けの催°グビ次一にいりよ作を詩導 のッ男つよ吟返う者正を頂 日の戦シ プシ夫のり譜し努のし理い レュ婦一更や吟力気く解て

な。| 因オイ頼は精クるるをむるる詩こアの行料 | 彩趣かに唱を干 り応のにフチん今進セここ学事こよ吟とはは、理グ、味を習す迎支 ま募フ家を口で年しンととん、とうにで今忙パ、、絵と見っるえのすにア内観 | 家こたトに、で解、につしのしソ学ボ手しつて一る日 が合ッの戦の内そいをよな詩説言 `いょ趣すコ友ク紙でけ `ワ事年 `格シワし活とアも会りん情か葉素てう味ぎンとシ `はる私ンとを のる等のン競順年にモ成迎 中 `でおグ馬不にとアりえ 味従す付 、同しっ一ま をっか合お読でたて更す二 ーてらい酒書詩いのに°月 、、、、、、吟もワも鈴に 前私更家カ映 、のンう木は 進のに内ラ画ゴでモー会七 さワ増とオ `ルすア歩長十 せンやのケ大フ。は前の二

私 0 J E 7 ハを ザ見 マつ け 清る 水 新

°吟たし

よく と う食も思 に物うい 。 に ーま 満つす たの さ夢 れは 平世 和界 に中 暮が ら争 せい まも

す無

早迎っ をサ まり さえく私おポ林しせ神 にたりの借し先たら田 °れ数 驚今で吟りト生 て場 き日すはしを を、が牛て頂池 あに 隠振、の改い田 つ入 と会 せりそ歩めた教 UL ま返れみて皆場 うて せるにのお様長 んとひ如禮にを 間 。 日きく申対は 一々か、ししじ に吟 数の 光のえ上上、め 年面 陰時環達げこ温 が白 矢間暦はまのか 経さ ちに ののをゆす場い

こと供と一がう何毎場 気いッ本 まくざ昨れ言のイ音致ちか日の入新 にまグ番 すおい年かわ頃メもし蛇ひで皆会年 居すプだ な。レそ よ願まはられかしなまっとご様しの けそぜう ういし泉も今らジくすてこざにてお に致たの信ま巳が一が一といは早慶 。し 。雅じで年悪一、番とま大やび K れのンで 思 ば為ト ま今号て信はい冷私嫌のす変五を とにに是 す後をまじ小でたのわ事。お年申 ザ 思はし非 う二てと と頂いて銭すく偏れで年世目し 7 皆もいりまにも一見もす女話に上 と人欲も 様ごてまい不の一でのがとになげ ことし大 滝 良指嬉すり自ね毒しの、言なりま ろもい成 沢 °ま由。がょよ十うります。 で健と功 い導し ししであうう二乙感す す康思し 年のい たなもるかな支と謝。 、い子一?気のでの教 でって 泉 で程年 元てビ あ官で

思えも鞭先

度 0 ハ支 ザを マ迎 え 横て Learner Language 裕

が早

神朝8

L

`けてがに十内ま感な習い屈てでか動錆っめ還 べばい邪入四たし覚私いてのい ` `のびたも曆 テ曲た魔門歳ちたがは始くよる詩実好ゆの卒を ラがもですでま。な冬めれう方吟行きくが業過 ン終の昔るやち剣くはまるな達をしで脳 揃わだの事っ一舞ポ手しののは習てなをつこて いっと人がと年を口足たでで詩いみい少いれ子のて感はで金の習りが。は詩文始な私し先か育 教も心よき子歳いと冷とな舞のめけにで日らて 場ましくま千月た落たこいが意たれ身もの何も でだま二し峰がくとくろかあ味のば体止よを一 し鞘し本た先流練し扇がとれがで分をめうし段 たにたも。生れ習たを寒思ば解すか動たでよ落の納。身初の幸程車はすいますが 身初のま場事持さい詩かがらかいすう でま刀にめ干しをもつの詩吟ら、なせ らを付は峰た探あ手苦舞もず聞いな又まと社

無し禄で1人材きレマべわとま坂

に出日ン臨おを広がの伝をいくフ

料 `日美でのとまビスンたのすま神

講何程人収先のしのコトり触。ち楽

暦

を迎えて

思

神う田こ

本:

京

泉

上抜け刀流六すりに手を聞退いのい運ず思動

楽番チ 坂組ヤ 神 分がン 室あネ をりル 坂 取まに 分 材すっ 放。め 映そざ さのに れフゅ まジー しテと たレい 。 ビラ

顧どま吟再コをポよ苦 いうす、認ン動しう八 中で。剣織クかツに苦 し宜今詩せーす嫌なの 上し後舞ざル方いり連 げくもとるのがの今続 まご精のを季向私日で す指進出得節いに迄し 導し会なとては続た 下ていくない曲いが さ参になるるにて いり感りとよ合お何 まま謝ま今うわりと すすしし一でせまか

よのてた度すてす踊

うでお。歳。身。れ

体スる

り詩を

溢がす深よ

いるい撻輩還れ合。いう吟し

まこつをに暦て吟同素にの一

すとか官こを毎とじ敵 `面と

°が後しれ越回ももな年白は

出にくかえ感なの味上さこ

来入おらら動るがわのはの

るら願もれしと一い方、事よれい引たま、つの々人を

うた致き人す素と吟お生言

に仲し続生。晴しを一経う

らて感人験の

し無じおにで

くくるひ比し

迫、こと例よ

力そとりすう

にれでにる

如

フ神 ジ楽 テ坂 で を 取 8 材チ ヤ

頑間まきの

張にすご先

り希。指輩

た望私導、

いをの、吟

と与吟ごの

習度がタ録生連た取ミの、れ数と坂 会も当レにに絡。材へ宣街合多びで 多演にトみ願う報あ依媒元等のエ毎 大場変もまいけ部っ頼体気の文ス年 な面更のしし、長た等に付交化タ秋 効がさりた、磯からのもけ流、二の 効がさりた `磯からのもけ流 `二の 果放れの °神田らと工 `てが芸○イ が映 `り明楽先フ申夫冊く約術一べ 出さ局でる坂生ジしが子れ一、二ン まれ側しいのはテ込あ、まか近~ト し、もた雰メじレんり掲す月隣がへた後恐。囲ンめビで、示。間住あ神 の縮収気バ三取おテ板イに民り楽

を鈴て

締つ

菊同

花席

-14

12

白だ

居い

12

清神 水宫 副秋 教季 場例 長大 奉编 津納 吟 泉

一ま東さ「

会店今度れのれ天因朗木吟

しで回のておて照に詠会じ

たダも式い伊約大芝さ長て

ラ吟宮伊まのを宮

祭終祭勢一歴祀は

`行はても平勢

年親一創祭

っ近さ来崇つ安神

てくれ年敬社時宮

会のる `さで代の

。甘れ

り了が神と史り

を後執宮しを

ラ奉年る勢干神大れはも

。さ年一神た

の祝一日一る一十一そ集 今後詞清は清一長一角の殿清 回一奏水十水のく日を縁を水 は人上教九詩中通か担もお教 秋ず `場名吟で称らうあ借場 のつ修のが会、ダ甘よっりは 温神祓益参一九ラーうてし `々加が月ダ日に` 会に教のし組十ラまな秋習月 `込四祭でっの会一 題か代展勝ま日りのた例を回のつ表を田れのと例。大行芝 練ての顧名て十言大今祭な大 習吟玉う誉い二わ祭年のっ神 を詠串一宮た時れへは祭て宮 兼し奉旨司。かて日九事いの ねた奠のの当らい本月のる参

散理

ダ納遷

食中

し、葉



宿 分 幸

場 が十 開月 設一 さ日 れ付 まけ した。代 Company of the last 番

(1)

櫛◇

田丸,

足 新に 宿当 教っ 場て

分

-

爾

に一た楽にと数ま木た業いの足こ室平 は一の器つ `人しの折生る故しの長成 本価ではい私がた短、の一郷ま分と甘 当格す何ての私。歌久在飯長し室し四 にはかで質吟のそっし京田野たはて年 驚ど一す間でもの東ぶ同高県 きの一かがはと折海り窓松飯とやタ月 ま位ど一集なに 'のに会高田い特 | か しすこ一中く集出一弾が等市い異トら `ま席をき `学にまなし たるで自し の手分ま弾っ者詠語市校古す背ま加 でにでしきてのわりヶ一くの景し納 す入弾たまき皆せで谷のかはのた隆 かりい。しま様て、で第ら昨も 一まて一たしのも石行九続年と こす詠そ楽てうら川わ回い秋に

な入崎をの職話崎

縁さ生っと岳が生

ご会先持こ後題先昔

吟始らた事生振に

のめれ教が命りな

不たた本あかにっ

思い。一るら電た

議と岩冊と転話岩

事一てにん明十世入加

と度こしだ治年話会分

れかっの器何ちい啄れ卒て私発

勝て吉林教バ 高場み 願ん新山六田友場|現松所よそ いに会さ名多実がの在会のうこ いも員んに枝氏始一 `'一確とで た暖紹に `子`ま人月が保思ふ しか介も応さ鎌り細二発をいと まくと手援ん田ま田回足おつ す見合伝にの利し和金す願き仲 °守わっ出五定た子曜るいま間 てご頂田 頂報い鶴分廣ンを二にし け告て山室瀬バ世時なて までお氏長幸।話間り すすり `を雄は役 `ま _ 会や °ま手入氏他にメレ飯長っ う皆す塚れ、に、ンた田にて

にし関建神 易た

正内おらり楽趣の致けじ節内新 をれのてで精詩が上彦第願勉まし味なして八子第 、流吟懐司氏二い強すいといま頂王さ二会 『をにかと、教しし 。時し私しき子ん教員 じし導場早をにかと、教しし またでを速少なしし十場まて何間てでた詩住(場 す。も訪昔しりくて二(すいもを)し。吟ま九 °き判過色た今のい月 まりごん。迄事の入 すませなここは板会 <u>___</u> 。せた方れれ全橋 どんらとかと然さ うがとおら言判ん ぞ `考話のっらに 官こえが老てず声

山丸しれて出後趣入を

のくかお来の味会掛同

内令 れ打のれ長れ今 さがけにために永さ二すし国精 ん期ても °では年ん教 十出き馴る場しめ九へ 一来ま染いをくて月桜 月るしみ性見しい入ヶ 入方たが格学でた会丘 °多の 淵心。 分 す声く方早た場 で速廣を よす、入田退

くぐ教会分職

和〇 石◇ 倉丸加何らたれたか 藤丸願室六んそ々腰活 田丸変でな地と のいに月かんと痛動平 のえ無ら域のあ のもよれ てそし以マ 協かち方まの、春悦内し入のらなしにで成良内で謀なで再る睦内大りま深おうい前り 子第ま会全岳折たな暇十男第いでいの会団美第いもすみりで想神子 、日りを八氏二きす環役が体さ二に岳 *ま吟会社々活潰年へ教たが境割きのん教心精大あこ し道へ友を動し会八場い、でやっ大、場強流変るち草無に た大ので過をて社月(とこの家か先十(くが明素ら加料住十一)。会入あご止い勤入鎌思の入業け輩一日な大る晴へ分講ま二 どを会っしめまめ会倉い出会等と、月暮り好くら入室習わ月う見をたててしを、分ま会はでな本入里まき楽し会近会れ転 ぞ学勧窪いそた終 官しめ田まの 。事人でり住加て し鎌ら龍し後二 幸期がし山 運尚またさに早ま。ん `柄吟ままさ く倉れ溪たは年地 お分、さ。関前域 草でじしわれ懐

喜いををでとり顔氏へ

ん吟重信スいラをの八

で詠ねじカラブ合大月 おでててウこ活せ学入

らす三くトと動ての会

ま立月てれ知一ま輩

°な落入し、吟た東

仲着会た七一が京

。月を

す派。即まり詩し

間いし

かれさをでい後

脇〇

とし古意会たにく雄氏場すてのす会室た子喜いををでとり顔氏。 。一出 。にへとさ

阪東と仲り的前決声

町いと毎方温

陽思間、なのめを藤

緒席まもみこん

にはだ参えると

勉大仕加ら二は

強変事されつ長

しなをれま返い

てよ持るし事付

いうたほたで合 きでれど °入い

たすて積入会で

井お

いがお極会を

悟ごたよう良

、か村

北〇 宮◇ 野清がた教先の学学B 原神まとで時に賞ま 教だにい教の 水増素場輩〇ん生会宮 田し間徳に詩、れ出 場と吟つ場稽入 の思じも長古会昌教たい本、吟推の身信教え晴でのBで時で野味いら離の日し四日。アオい教研工協工程なら移動物以及しま てさい教理五地子場たら稽熱総い代よ幸守教まし回で習教け恵 皆いら魅の日し昭場 見んつ室小十鹿さ 様なれ了めがて氏 学にもが説五児ん にがなさり待四へ にお飲なを歳島へ はらいれはちか八 行会みい読で県十 今練のまり遠月月 後習がすのしに入 きいにかむす し行なこ、昭月 共に詩。あくな会 そてっとと趣和人の新て思。味三会 ご励吟言るてり 指んのわ指なま 導で難れ導りす 後宿いつ家 入でるての映二 宜いしたにま 会あおい近画年 しまい通はせ毎 しる店たく観生 す。所り `ん月

。水十富 い年十 両た九二 祈享教二 り年場月峰 し十月智 い八長十層ま歳四層 マンハ反丁風また十と四回す し三し日刊 。謹近日 ま歳て逝(前まで) でさ ごれ刻 冥ま でさまり 福し でれし、「変更」 をた。会

お

福し

く望発 吟が、昨 じ見各年 たえ国は いまの とせ指近 願ん導隣 っ °者諸 て唯が国 い々替と ま平わ何 す和っか °でてと 、気今摩 八持年擦 田ちのが

食展多

訓新が指がっ今詩か は気受ってとい波 宿出導先と迄吟っ神 す持けあく一る治と っちまれる緒のさて稜教来し生無全にた田茂い かのしくのに一んも代場まては理く憧と教行し し下じかやれい場氏ま り良た?は参とが上さ たさめなっはうにへす ハさが「シ加の一手ん マに、とヤ。事私にへ る先とた持の入八 の輩もこっがれ月 `ボシ七 っ又大思ン教 での思とて私て入 て々きいソ室早イャ月 続皆っがおの頂会 いびなつンへ速スン入 まっ声つで行私訓ソ会 け様て無り今き てがおいまの すくを なくも練ン り出ごくと鶴にを ゆ親りしし心本 く切ま、た境当 す指詩聞田行歌 覚にしちがでに 今事導吟こさっう

でのを!えんて友